

世界に誇れる極上の会津米づくり「目指そう 今年も特A 会津コシ1等米100%」

両沼地方稲作情報 第4号

令和4年6月10日

発行： 福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)

” 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店

(有)山一米穀店、会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区

○生育ステージに応じた水管理をしましょう。

○土壌の異常還元(ガス湧き)による生育障害に注意しましょう。

1 気象情報 (気象庁 東北地方 1ヶ月予報(6月11日~7月10日))

1週目は気温が低く、2週目はかなり高くなる可能性があります。気温の変動が大きい見込みです。天候は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

2 初期生育

草丈、茎数、葉齢、葉色は平年並からやや少ない傾向があります。

表1：水稲作柄解析試験データ (会津地域研究所 6/7 時点) 移植日：5/19、栽植本数：20.8株/m²(30cm×16cm)

品種名		草丈(cm)	茎数(本/m ²)	主稈出葉(葉)	葉色(SPAD値)
コシヒカリ	本年	23.5	196	6.3	32.5
	平年比	80%	98%	±0	-1.0
ひとめぼれ	本年	23.7	201	6.3	32.9
	平年比	86%	93%	±0	-2.8
天のつぶ	本年	28.5	185	5.7	32.1
	平年比	93%	89%	-0.3	-2.9

3 水管理(分けつ期~幼穂形成期)

(1) 分けつ期

- ・浅水管理で分けつを促進させ、必要茎数を確保しましょう。

(2) 中干し(有効分けつ決定期~幼穂形成期前)

- ・必要茎数(目安：コシヒカリ20本/株、ひとめぼれ25本/株、天のつぶ20~22本/株)を確保したら中干しを行い、無効分けつ発生を抑制しましょう。
- ・幼穂形成期前(出穂期25から21日前、表2参照)までには終了しましょう。
- ・水不足ほ場では無理に中干しせず、用水の確保状況に応じて水管理しましょう。

(3) 幼穂形成期

- ・間断灌漑により根圏環境の改善に努めましょう。
- ・低温(平均気温20℃以下、または最低気温17℃以下)が想定される場合は、深水管理(水深10cm程度、幼穂が水に隠れるように)にして、幼穂を低温から保護しましょう。

表2：幼穂形成始期と出穂期の平年値(会津地域研究所)

品種名	幼穂形成始期	出穂期
コシヒカリ	7月15日	8月4日
ひとめぼれ	7月8日	7月29日
天のつぶ	7月11日	7月31日

今からできる倒伏対策

◇土壌の異常還元（ガス湧き）を解消し根傷みを防止

土壌の異常還元は根傷みを引き起こし、長引くと節間の充実不足や根張り不良となり、登熟期の倒伏要因のひとつになります。生育に影響がある場合は、一時的に落水してガスを抜き、根圏環境を改善しましょう。また、中干しを適期・適切に実施しましょう。

◇ケイ酸カリ等資材施用により丈夫な稲体を確保

稲はケイ酸やカリを吸収することで、根張りが良く丈夫な稲体になり、耐倒伏性が向上します。また、受光態勢の改善により光合成能力が向上します。ケイ酸・カリの吸収は幼穂形成期以降から旺盛になるため、その直前（出穂 40 日前頃）の施用が効果的です。

4 病害虫対策

(1) いもち病

- ・会津地方における葉いもちの初発は6月下旬頃です。
- ・いもち病は、夏季の低温、多雨、日照不足で発生しやすくなります。
- ・窒素過多で過繁茂の稲で多発する可能性があります。
- ・ほ場内に葉いもちの発生を確認した場合、速やかに散布剤（液剤・粉剤）で防除してください。
- ・田植え時に箱処理剤（直播栽培では種子に塗抹処理）を使用していない場合、水面施用剤等で防除してください。

(2) イネドロオウムシ・イネミズゾウムシ

- ・主に葉を加害し、白色の加害痕を残します。
- ・被害が大きいと生育不良や分けつ抑制による減収の可能性があります。
- ・田植え時に箱処理剤（直播栽培では種子に塗抹処理）を使用しておらず、発生が多い場合は水面施用剤等で防除してください。



図1：イネドロオウムシ（幼虫）による食害



図2：イネミズゾウムシ（成虫）

○窒素過多で、葉色が濃い稲は病害虫の被害を受けやすくなります。移植前後に窒素を施用した場合も注意しましょう。

○福島県病害虫防除所のHPでは病害虫発生予察情報を公開しています。定期予報、BLASTAM(水稻葉いもちの感染しやすい日を判定するシステム)など

5 穂肥

- ・基肥一発肥料を使用している場合、極端に葉色が低下しているほ場を除き、穂肥は必要ありません。
- ・出穂 25 日前の生育を確認し、草丈が長く葉色が濃いほ場は、穂肥の量を減らすか施肥時期を少し遅らせましょう。
- ・ひとめぼれ、天のつぶは、出穂 25 日前にチッソ成分 2kg/10a を基本とします。
- ・コシヒカリは倒伏しやすいため、施肥時期を遅くして、出穂 15 日前にチッソ成分 1.5~2kg/10a を基本とします。

○農薬はラベル等を確認し、適正に使用しましょう。

○今年も節水に御協力をお願いします。

○熱中症等の農作業事故に注意しましょう。

○農業保険(収入保険、水稻共済等)に加入しましょう。

◎次号の発行は7月中旬予定です